

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200572
法人名	株式会社 大慈会
事業所名	グループホームさくらの家
所在地	福岡県福岡市西区福重1丁目5-13
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年12月10日	評価結果確定日	平成25年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家の周りには四季折々の花を整備し、春には満開の桜の花を見ることができます。家での生活を基盤に考え、お一人お一人の生活ペースを重視し、いつまでも笑顔で生活できるよう支援しています。また、一人一人の残存能力を見極め、可能な限り自立を目指し、かわらず生活ができるよう職員で話し合い試行錯誤しながら対応にあたっている。また、ご家族の精神的・金銭的負担にも重視し、良好な家族関係を継続できるよう援助している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地としての開発が進む幹線道路から少し入った場所にあり、玄関先のオープンガーデンは四季折々の彩を見せ、敷地内にはホーム名にも由来する桜の木が10数本植えられている。毎月、地域のボランティアの方の協力により飾り付けが施される室内空間は、障子や畳の設置による「和」の雰囲気作りと、プライバシーの確保や施設感の排除に配慮された造りとなっており、各所にこだわりが感じられる。開設して13年目を迎えようとする中、あらためてサービスの質の確保に向けたアプローチを行い、職員の主体的な関わりを求めながら、ホームの活性化に取り組んでいるところである。一例として、排泄ケアに重点的に取り組み、個別のリズムやサインの把握に努め、一人ひとりの排泄ケアに取り組んだ成果として、日中は布パンツで過ごす方も多く、オムツの使用量は大幅に減っている。また、外出の機会の拡大にも取り組む等、心身の維持、活用に向けて、その「介護力」の発揮に努めている。今後も、家族や地域、行政との連携を深めながら、個別支援の更なる追求が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を創りその理念を元に利用者・家族職員すべてが思いを共有しながら安心して楽しく生活できる環境を作っています。	独自の理念とともに、「目指す社風」を作成し、職員間で共有を図っている。理念については、今後の再構築の意向もあり、検討が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民のボランティア参加による繋がりや、町内会活動への参加などの取り組みに参加しています。	近隣地区の自治会便りが届けられ、地域情報を共有している。毎月、元職員である地域ボランティアの方により、玄関ホール等に、季節の飾りつけが施されている。また、様々な形で実習生や職場体験を受け入れており、毎月、2、3名がホームを訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉関係の実習の受け入れや小学校・中学校の職場体験を受け入れ、福祉の仕事の理解や支援を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域役員への参加、又、地域包括支援センターへの声掛けを行い、全家族参加を目指し、よりよいサービス提供を行うための意見交換が行えるよう現在調整しているところである。	公民館で開催される運営推進会議には、家族、自治会長、民生委員、地域住民代表等の参加を得ている。全家族への開催案内を行い、意見の収集に積極的に取り組んでいる。	家族の参加を優先しているため、地域包括支援センター職員の参加の機会が少ない。現在は福岡市担当者への案内も予定されている。定期開催に向けて取り組んでいる段階である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所・区役所の担当者とできるだけこまめな情報交換を行い、臨機応変に対応ができるよう努めている。	地域包括支援センターへは、事業所通信を届ける等、情報共有に努めている。福岡市担当者への、運営推進会議案内を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、身体拘束を行わない、そのような環境を作らないよう、職員の意識統一を図り、理解しながら取り組んでいる。また、グループ協議会、市町村等主催の研修会に参加し理解を深め、その内容を報告書にて全職員へ周知している。	身体拘束廃止委員会を設置し、職員の共有認識を図りながら、ケアのあり方について検討を行っている。日中の施錠は行われていない。職員個々の観察力や対応力を高め、言葉による抑制についても意識を高めるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な会議において勉強会を開催し、理解を深めるとともに、グループホーム協議会、市町村等主催の研修会に参加し幅広く知識を深め、その内容を報告書にて全職員に周知している。		

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な会議において、制度の勉強会を行い、又、グループホーム協議会や市町村等主催の研修会に参加し理解を深め、その内容を報告書にて全職員に周知している。	入居契約時に、権利擁護に関する情報提供を行っている。現在、制度を活用している方もおり、全職員の理解については課題として残るが、活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結・解約、または改定等の際には代表自ら家族への説明を行い、十分な理解と納得を図り、疑問がある場合には、その都度わかりやすく説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪れやすく、話しやすい環境を作り、家族とのコミュニケーションを密にとり、様々な意見をいただき運営に反映している。また苦情相談窓口を設置し随時対応できるよう努めている。	運営推進会議の開催を全家族に案内し、積極的な参加を求めている。忌憚のない意見交換や、家族同士の交流の機会としても活用できるよう働きかけを行っているところである。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議による提案及び定期的なアンケートの実施、代表者・管理者との個別の面談を開催し、職員から様々な意見・提案が出やすい環境作りに取り組んでいる。	月例会議の中での協議や、仕事や職場、メンタルヘルス等に関するアンケート調査を実施し、職員の意見や要望を収集している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表と管理者で細かな摺合せを行い、職員全員がやりがいや向上心を持って働いていける職場環境・要件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たっては、年齢や性別ではなく思いを共有できる方を選考対象としている。また職員に対しても、働きやすい環境づくりに十分配慮し、資格所得や研修会への参加を促し援助している。	職員の採用にあたっては、年齢や性別、経験等による排除は行われていない。仕事や職場に関する内容で職員アンケートを実施する等、意見の収集や働きやすさへの配慮を行っている。専門職としての職員育成を図る為に、資格取得や研修体制の充実に向けて、取り組みを行っているところである。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的な勉強会において、様々な問題を取り上げ、検討会議を行い、職員の意識を高めていけるよう努めている。	ホームでの事例を踏まえ、外部より講師を招き、研修を実施している。また、職員のメンタルヘルスにも着目し、アンケート調査が行われている。	

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量や状況を確認しながら、様々な勉強会・研修会への参加を促している。又、毎月の会議において勉強会を開催し、質の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、同業者との交流の場を作り、お互いの情報交換の場としている。又、リーダー研修等の受け入れを行うことにより、お互いが向上していける環境づくりを行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階において、何度も本人・家族との面会の機会をもち、お互いの関係作りに努めている。又、その後体験入居を行い、なじみの関係・環境を構築していけるよう努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にお互いの人間関係の構築が最も重要であるため、家族が安心できる状況になるまで何度も打ち合わせを行っている。又、本人によりよい環境となるよう、性格等考慮し対応を検討したうえで入居していただいている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階において、管理者・ケアマネ共々ゆっくりと話ができる時間を作り、十分なアセスメントを行い、本人・家族が本当に必要としている状態把握に努め、提案できる体制をとっている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の日々の声に耳を傾け、できる限り対応していけるよう努めている。又、常に尊敬の念をもちながら、ともに生活するという関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者を家族として捉え対応を続けていることで、家族との関係も身近なものになり、小さなことも話し合い、行動することで、一緒に入居者を支えていける関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に細かなことも状態報告を行い、関係が途切れないように支援を行い、来初を促している。又、なじみの人との関係も途切れないように連絡を行い、来所していただき、なじみの場所にはできる限り外出するなど取り組んでいる。	近所の方の来訪や、教職を務めた方の昔の教え子が訪ねてくる機会もある。馴染みの場所への外出や買い物を支援している。	

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の状態を把握しながら、利用者同士のコミュニケーションができるよう声掛け・対応を行っている。またコミュニケーションが難しい方にも職員が間にたち良好な関係作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所の理念でもある、家族という考え方から、一度繋がりができた関係性は一生のものであり、どのような相談・支援にも対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者に希望・思いを聞き、その希望に沿ったケアを心がけている。入居者のライフスタイルに合わせ常に職員間で話し合いをもち、対応検討しながら職員統一を図っている。状態変化時には家族・本人の意向を再度ヒアリングし会議を行っている。	入居者の言葉等、主観的な情報についても記録として残されており、日常の様子がわかりやすい。カンファレンス等にて、情報共有や本人本位の検討を行い、思いや意向の把握に努めている。介護計画への反映については、今後の課題としている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、これまでの生活歴・生活環境をしっかりと把握し、入居されてからは本人とのコミュニケーションの中で細かな情報把握に努め、常に意識して取組んでいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの日々の状況は変化しているため、状況把握のために記録・情報共有等の報・連・相により現状の変化や対応把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を反映しながら、管理者・ケアマネ・スタッフすべてで話し合いを行いながら、現状にあったプラン作りに努めている。	介護計画の実施状況をチェックし、定期的な評価を行い、現状の確認や見直しにつなげるように努めている。	以前には、センター方式を活用した情報収集に取り組んだ経緯もあるが、本人、家族の意向はもとより、医療関係者や職員等の意見や気づきを反映しながら、モニタリングやアセスメントに基づいた計画の見直しに結び付けていくよう、取り組んでいる段階である。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録等の書類関係は全職員の意見を反映させながら、常に見直しを行っている。又会議等により実践結果を報告し、情報共有に努め見直しに反映させている。		

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に状態変化のある入居者の貯め、現状で対応できない受診等も調整をつけたり、主治医やご家族相談のもと対応している。またマッサージも受入れ個別のニーズにこたえている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スタッフや他入居者の家族との関係はもちろん、色々なボランティアを受け入れを行ったり、季節行事を取り入れながら、心身ともに楽しんで生活できるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を主治医としている。又、希望時には近隣の病院や往診対応病院を紹介している。身体状況の変化時や医療に関する相談はすぐにドクターに相談・確認し、対応している。	入居時に、かかりつけ医について確認を行っている。また、複数の協力医療機関との連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。電話連絡や家族来訪時に、健康状態や受診状況について情報共有を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師スタッフと相談しながら環境整備に努めつつ、協力医師の支援を最大限に利用し、各入居者が適切な受診等が受けれるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供など医療機関との連携を密に行えるよう事前の関係作りを大事にしている。又、密に病院との連絡を行い、早期退院につながるよう支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に医療行為の中で、できる・できないをはっきりと説明を行い、重度化の可能性・現状からの変化があることを説明している。会う回数が増えることで、変化を受け入れることができなくなる為、できるだけ細目に報告を行っており、急な誤解が生まれないよう説明している。	終末期の対応に関わる指針や看取りに関する同意書をもとに、方針の共有や意向確認が行われている。実際に看取りが行われた経緯もあり、状況の変化に伴い、家族や医師との話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	GH内の研修において、定期的に訓練を行っている。又、緊急時の連絡方法やマニュアルを書面化し、常に把握できるよう掲示している。		

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置を行い、消防訓練によるシュミレーションを行うことで、意識を高めている。又、地域住民との交流を図る中で協力体制を確保できるような関係性を築いている。	夜間帯を想定し、年2回、消防署の立会いも含む消防訓練を実施している。飲料水や食料品の備蓄にも努めている。運営推進会議を通じて、災害時の協力体制の構築に努め、町内の防災訓練への参加案内もいただいている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どのような方に対しても常に尊敬の念を持ち、自尊心を傷つけないような対応を心がけている。また、自由な時間を尊重し、できる限り、自らのペースにて生活できるよう支援している。	プライバシー空間としての居室の位置付けや、個別の生活習慣や時間の流れを尊重できるよう支援を行っている。排泄ケアや入浴の際には特に留意し、細やかな配慮を心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の意思を尊重できるよう、食欲や行動欲など本人の言葉をくみ取りながら対応している。又、伝えにくい方にはスタッフから活動への参加の声掛けも行い、本人の意思の確認を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて対応を行い、業務は二の次としている。本人の意思や思いをくみ取りながら個々の希望を尊重している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着慣れているものを持ち込んでいただき、自らの意思で選び更衣できるよう支援している。また、購入時にも本人の趣味・思考を考慮し購入している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意見を聞きながらメニューを考え、調理の仕方を聞きながら食事づくりをしている。又、食事意欲の低下のある方に対して、できる限り本人の意向に沿うように提供している。	買い物に同行する方もおり、嗜好や栄養バランス等に配慮しながら、入居者とともに献立を決めている。職員も同じテーブルを囲み、和やかに食事している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食事量や体調を考慮し、日々の提供をしている。また、バランスを考えながら対応している。		

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り、毎食後の口腔ケアに努め、ケアの難しい方や処置が必要な方には歯科医の往診を受けていただき清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録や個人個人の排泄サインを把握し、本人にあったリズムでの誘導に心がけている。又、可能な限りオムツの使用を減らすよう職員間での話し合いを持ち支援している。	日中は出来るだけ布パンツを使用し、個別の状況やパターン、サイン等の把握や、カンファレンスにおいて協議を行い、一人ひとりにあわせたトイレ誘導を行っている。この取り組みから、オムツの使用も大幅に減り、尿意の表出が可能となった事例もある。夜間は個別の状況を鑑み、支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の大切さなど勉強会を行い、排便停滞時には飲水等に気を付け、乳製品を摂取してもらい、活動を促すよう取り組んでいます。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間にはこだわらず、必要時に対応を行い、衛生面にも配慮したうえで声掛けを行っている。又、声掛けにも工夫を行い、気持ちよく入浴していただけるよう心掛けている。	毎日入浴準備を行い、希望や状況に柔軟に対応している。ゆっくりと浴槽につかることを大切に伝え、時には柑橘湯を楽しむ機会も設けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活ペースを把握し、本人の状況を確認しながら無理のない生活ができるようサポートしている。また、夜間も安眠を重視し色々な角度から検討し、対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をまとめ、各自確認できるようにしている。又、必要性に応じて主治医との連絡をとりながら支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴や本人または家族からの話の中から、趣味や楽しみを見つけたうえで、状況に合わせてうえで対応・提供している。		

福岡県 グループホーム さくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩等、入居者の体調に合わせて対応している。本人の希望にできるだけ添えるよう提供に努めている。	希望や気候に応じた外出の機会の拡大に取り組んでおり、散歩や買い物等に出掛けている。庭には愛犬の存在もあり、敷地内に10数本あるという桜の木や、玄関先にはオープンガーデンも施され、気軽に季節感を感じることができる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のうえ、各利用者それぞれに合わせた対応をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ることは出来る限りご本人の選択としてできるように家族と協力しながら対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔ながらの日本家屋を意識しており、できる限り施設間のないよう工夫している。又、周囲にも季節の花を植え季節感が味わえるよう努めている。	木の質感が多用され、畳スペースや障子が設置される等、「和」の雰囲気を出している。共用空間は、地域のボランティアの方が毎月のように訪れ、季節感ある飾り付けが施されている。各居室の間には作り付けのベンチが設けられ、一息つける場所として、また、プライバシー空間作りへの配慮となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内の数か所に適度な死角となるようベンチを配置したり、ソファや畳を置き、気分にあわせて選べる環境作りをしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みのものを持参していただき、本人にとってなじみの環境となるよう環境整備している。又、ご家族にも相談し配置にも配慮している。	各居室には、廊下側と外部に面して、障子が設けられた窓が設置されている。和室とフローリングの設定があり、押入れも設けられている。筆筒や仏壇等が持ち込まれ、これまでの暮らしの継続や、居心地の良さに配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの配置や、廊下の滑りやすさの解消を検討し、危険となるものの排除を行い、入居者の安全を確保したうえで、できる限り自立した生活ができるよう支援している。		